

時代加見廿五編

多林堂書梓

^ 13  
3756  
9







茶の湯時代鏡

廿五編上

外題曲五因全

成の喜  
國貞画

廿五編下

子校



此雪  
美談  
時代鏡

春水作  
國貞画

廿六編下

廿六編上

外題由左開

士成新書  
三才林文庫



北雪時代鏡

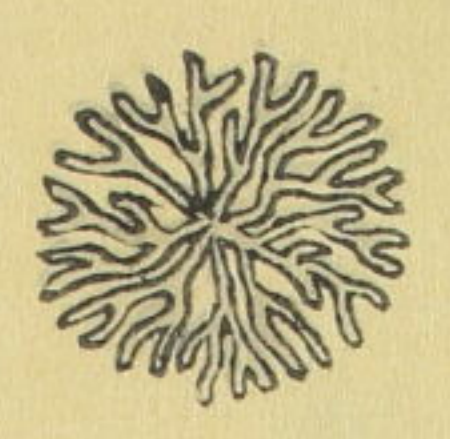
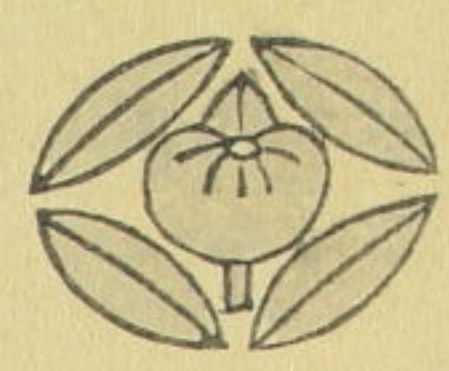
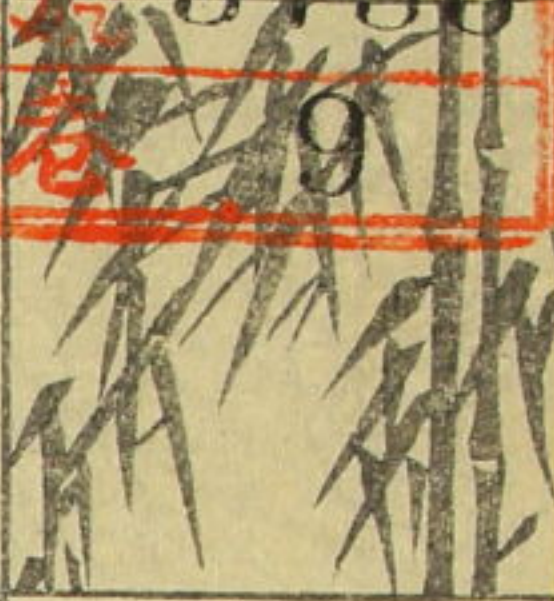
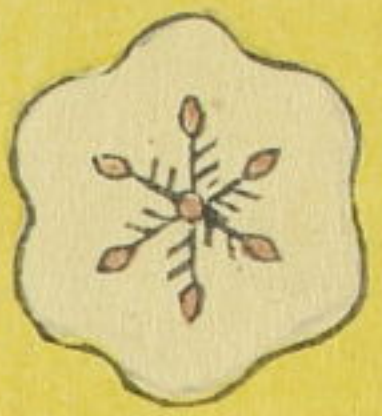

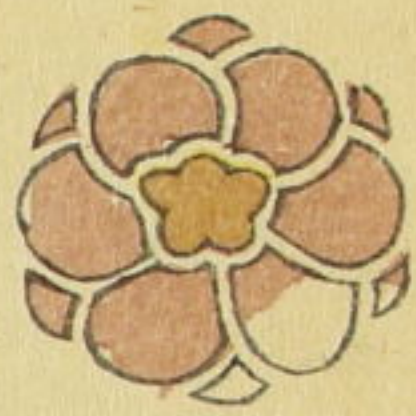
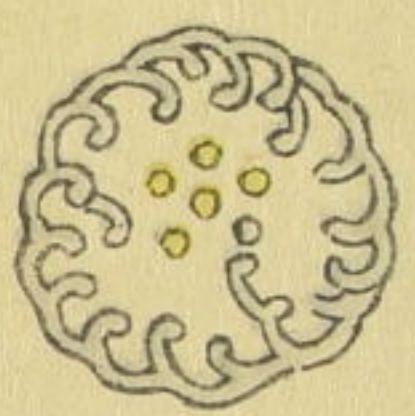
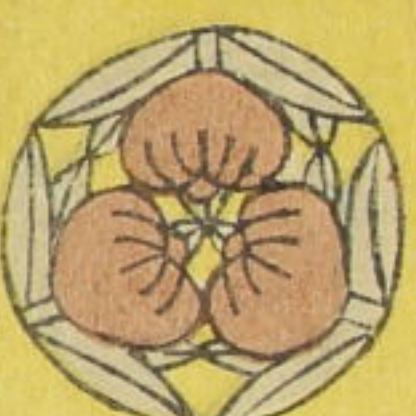


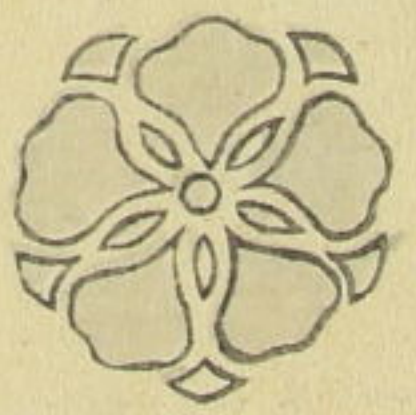

廿七編下

若林 彦 卷 持

春水作 國真画

廿七編上

門へ13  
 3756  
 卷9

	る 永		
	る 永 化		
	為 國 貞 畫		時
			代 鏡
			二十 七 編 の 下
			

五林堂梓  
 岩

一



大約稗史を綴る小豫腹藁の恁々後を斯せん  
 憶ひゆつらむ措るも儲筆採る小至りくハ後とめて  
 先小加え右と左り小做を更多り爾ハ這前廿四編の幕と  
 切んとする前小那蜂澤の花作が小菡の跡と追行をめて  
 筆張るめて閣く今道平が物語と編も果さば小菡が  
 う小賢さんといふ赴向りが恁々さふハ餘談小の只  
 徒小編數高くて大貫目する多賀の話ハさるが忘し玉く  
 ると案を轉して尾上助の妻子の傳ハるるを總て僕が拙作  
 るこの物語と央綴りて又那話小移るるを夫等の類と多し  
 看官前後と讀返し宜く熟覽と願ふふこそ

壬戌孟春  
 吉且新鐫

為永春水記也

寺代十五

寺代十五



二

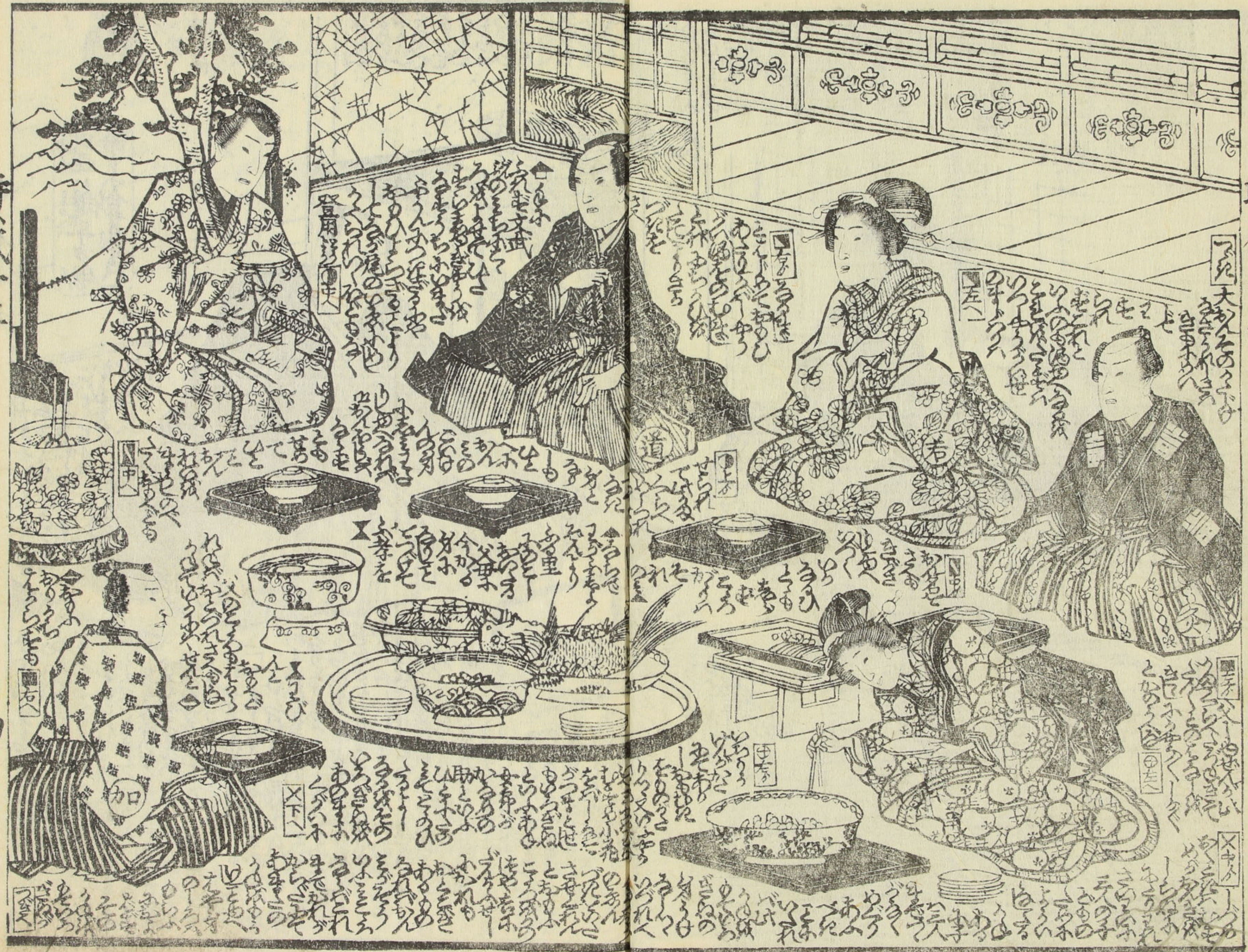
郊根のた



月代十五







中

下

加

中

下

加

中

下

加

加

下

中

道

中

下

加

中

左

中

下

加

中

中

下

加

中

下

加

中

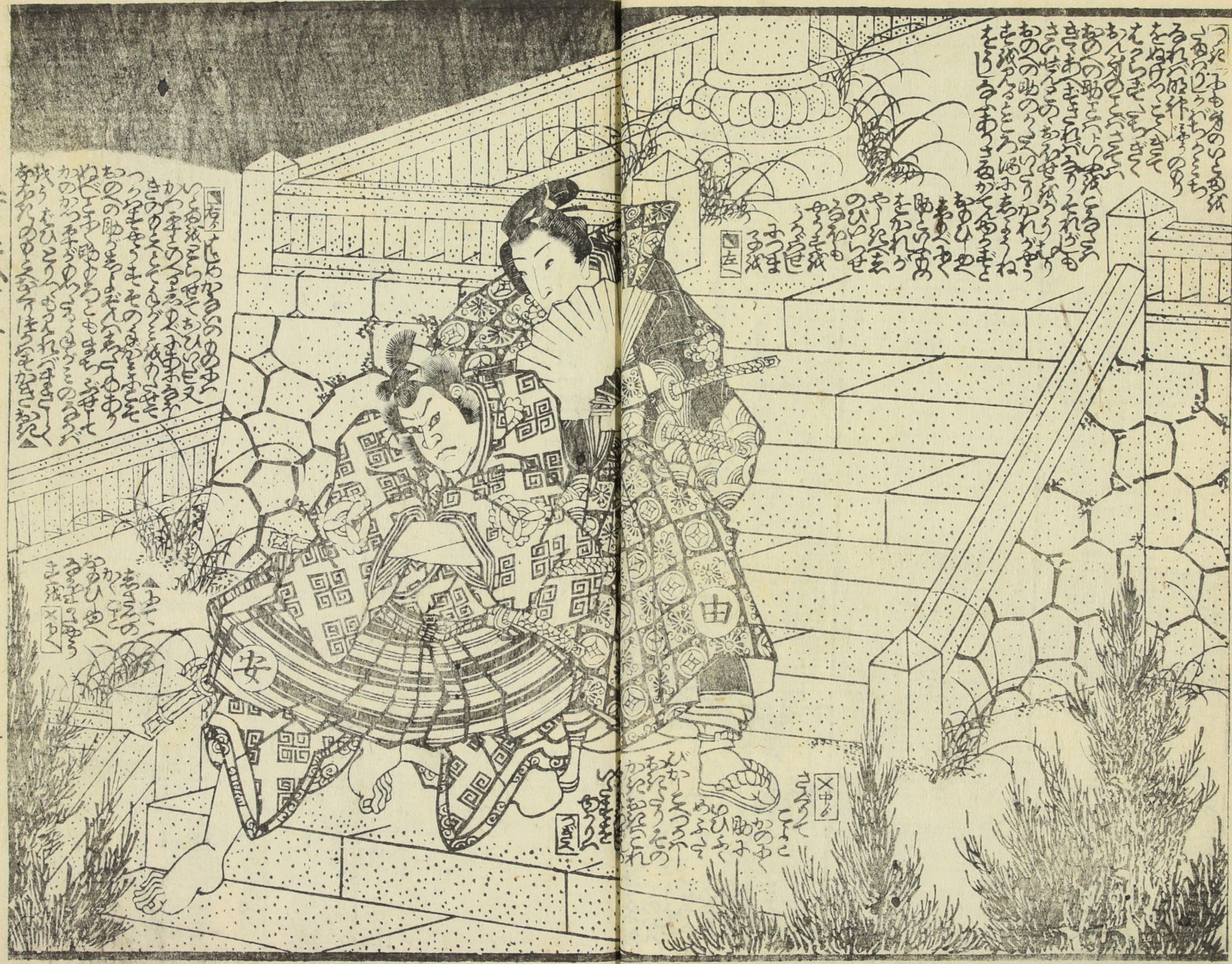












寺代十五

大坂 寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり  
 大坂 寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

寺代十五  
 此の巻の物語は  
 長江の舟屋敷の  
 長七郎の恋物語  
 の物語なり

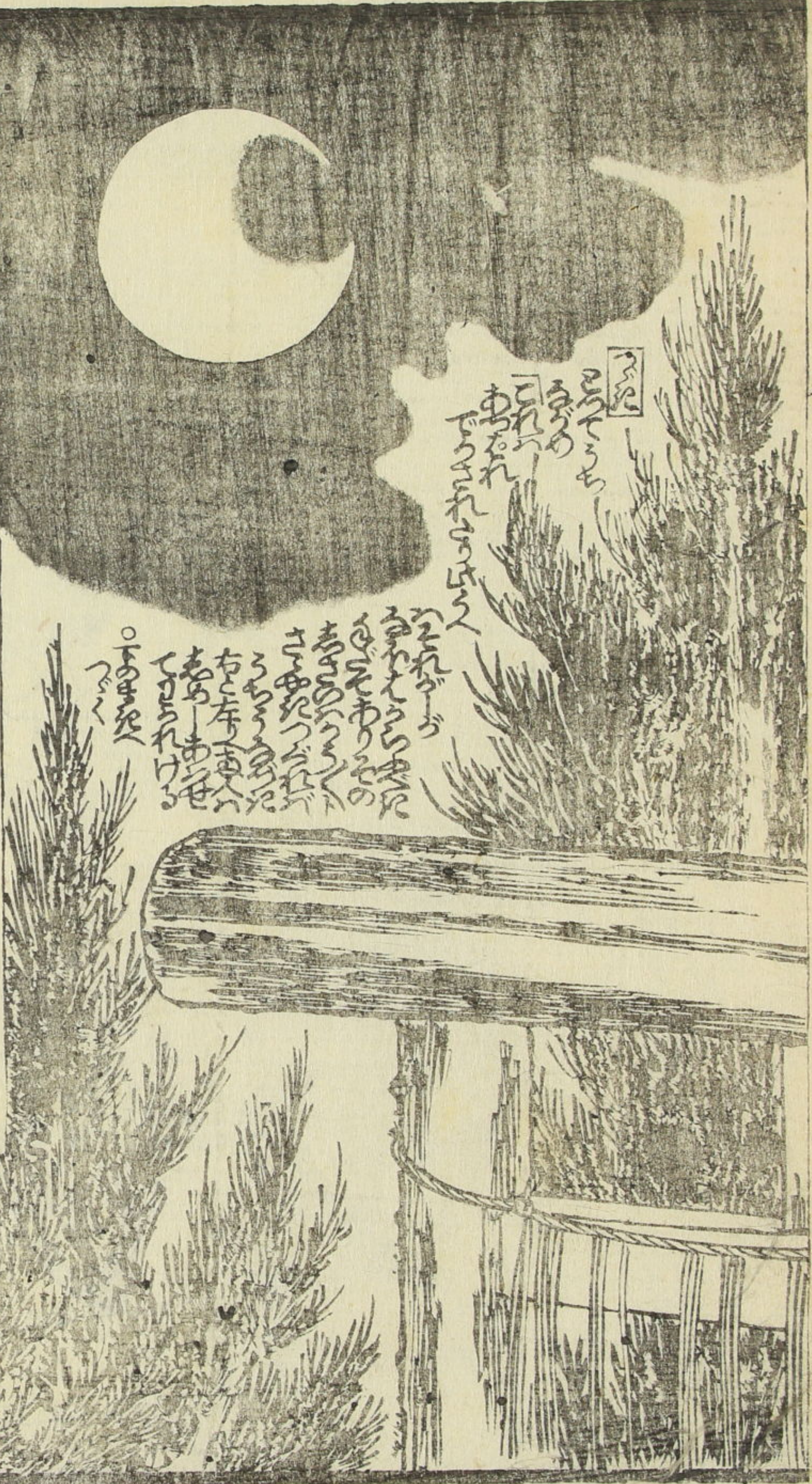
三



寺代十五



春水作國貞画



甲午十五

うららかに  
ささげ  
おのれ  
ささげ  
ささげ

これぞ  
うららかに  
ささげ  
おのれ  
ささげ  
ささげ  
ささげ  
ささげ  
ささげ  
ささげ

この  
うららかに  
ささげ  
おのれ  
ささげ  
ささげ



Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, likely a preface or introductory text.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.

Handwritten text in vertical columns at the top of the left page.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page.











● ちんちん  
 のみちや  
 かくのあり  
 さかみちあり  
 ちんちんあり  
 こゝろあり  
 ゆうのあり  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり

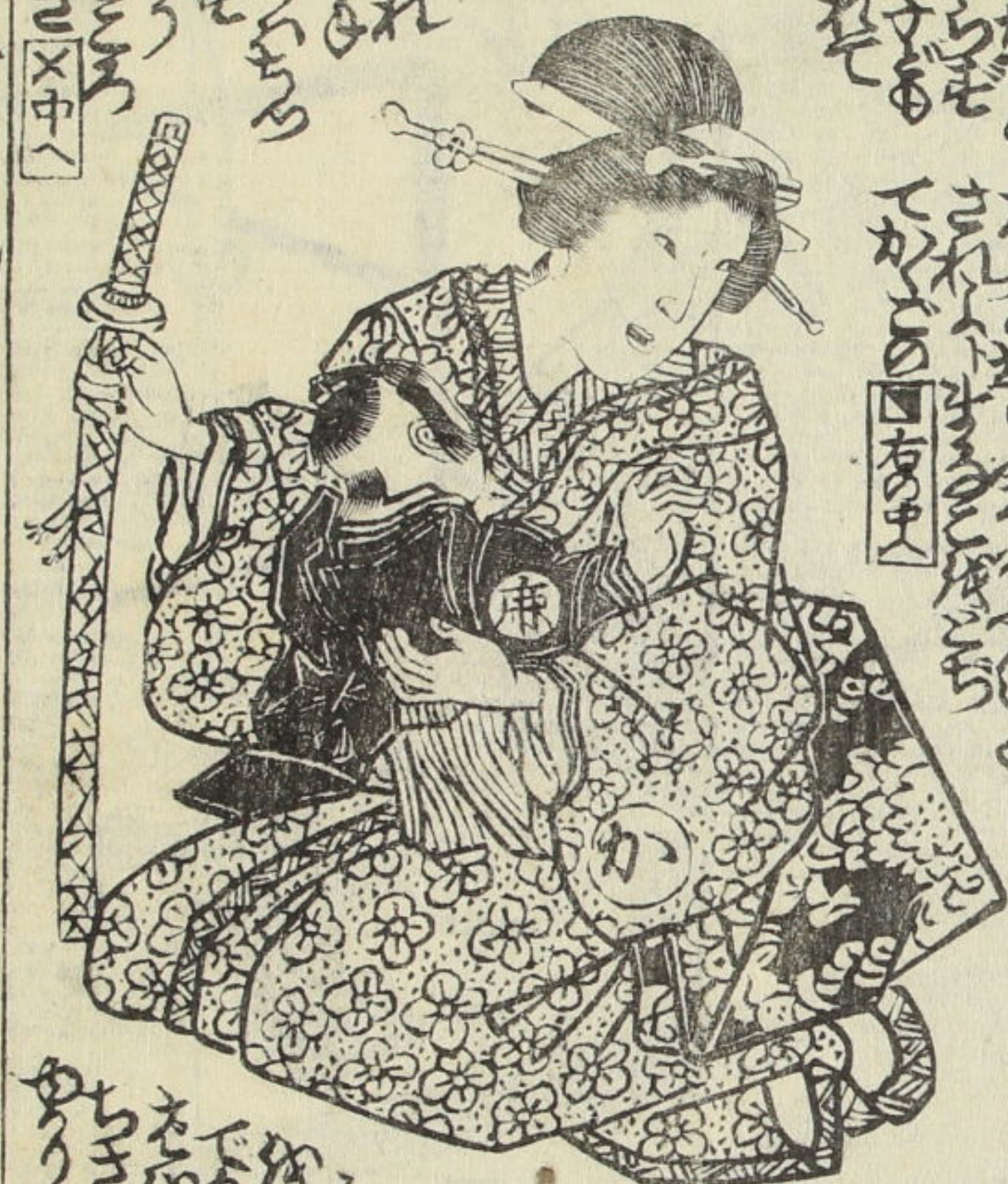


▲ 中へ  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり  
 ゆうのあり  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり



▲ 右  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり  
 ゆうのあり  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり

● ちんちん  
 のみちや  
 かくのあり  
 さかみちあり  
 ちんちんあり  
 こゝろあり  
 ゆうのあり  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり



▲ 中へ  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり  
 ゆうのあり  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり



▲ 右  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり  
 ゆうのあり  
 ちんちんあり  
 さかみちあり  
 こゝろあり









朝鮮牛肉丸 大色金三朱 中色金二朱 小包百銅

右の菓被末身おむし  
は如左の如くおむしの菓  
おむしはゆい深湯を  
よくよく煮ゆ味の上は味  
をよむ

下合三朱を  
おむしはゆい深湯を

烏水春水作歌川國貞画

ついでに  
かゝる  
おむしはゆい深湯を  
よくよく煮ゆ味の上は味  
をよむ

○四十餘年の飛は海をもも素より無むまのん俗教化のあふ

○生屋の汁を知らぬは母は海文札の信経もつらやま

○油と俣と思ひまはしやあまや眠ははるる張有ん女もつ

○おれは笑ふその知るるなごううあま余は尚生もはるる

○其愚おも又及ぶまゝ馬存人子女家秋数事一唐石ハ

○ほきももいりき筋の一柳も婦却のたあゝ勤儉の増

○ともをれと復例の時代か自の編輯をとのり

○文之二のえ成のまらねお水考あま多あ



真葛の亡妻



岳ヶ嶽  
河右衛門



船板穴藏

下女  
出子  
介



頓足羽太郎

洞右門  
折鬼  
女兒

越野  
次郎















Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the top illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom illustration.



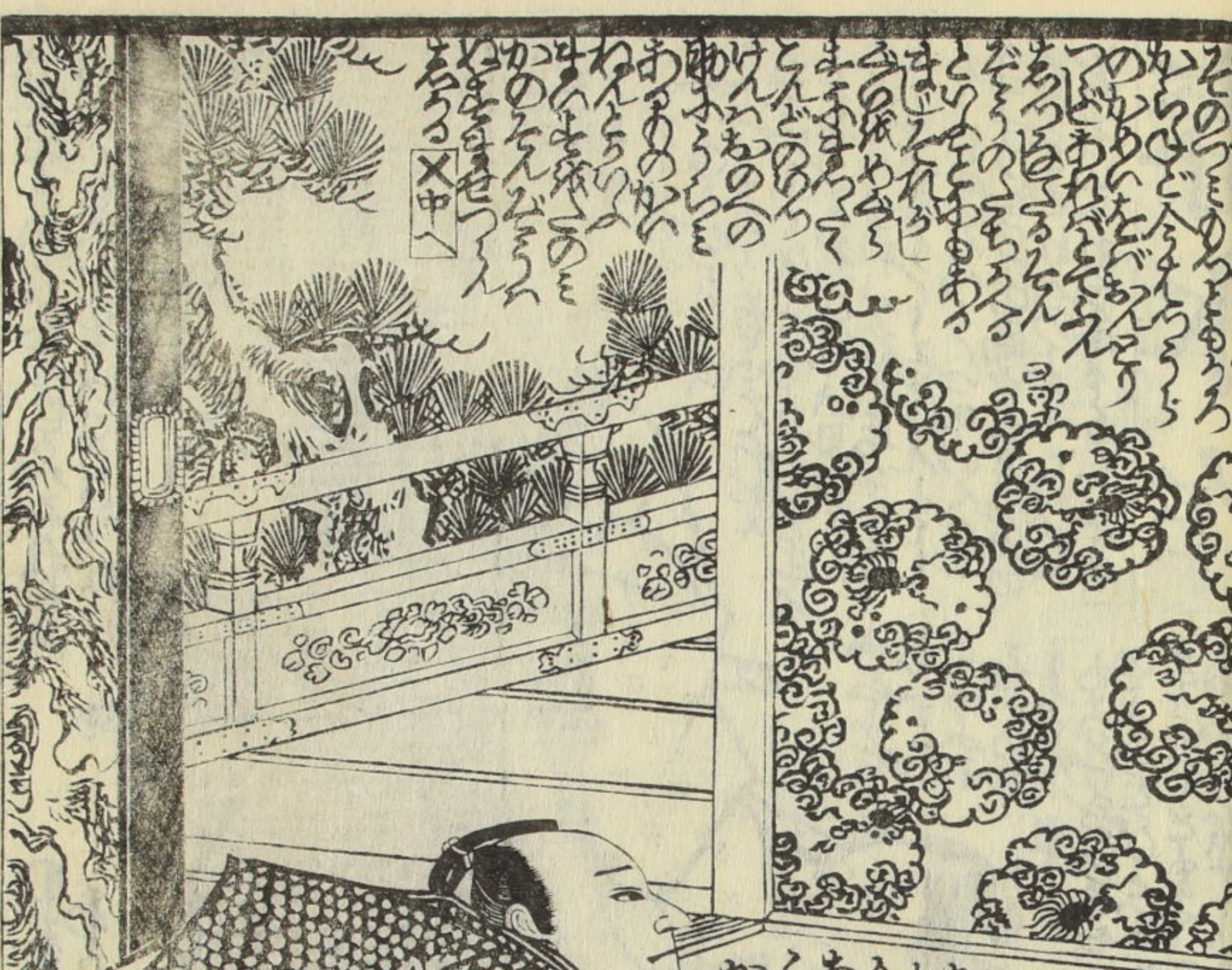
Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the top-left illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom-left illustration.

寺ニハナ



その時中... 由... 正...  
 此の物語... 由... 正...  
 (Vertical text columns providing a narrative or commentary on the scene.)



か... 正... 由...  
 (Vertical text columns interspersed with the illustration, likely providing commentary or a narrative.)

國貞画



春水作



三

春水

芝神明前

箕田 浄書 青洲



ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の

ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の



ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の

ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の  
ついでに三浦半島の

右足





あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう



あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう

第七十八

十五

あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう



あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう

あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう



あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう  
あつちのうちに  
ひたひたのうちに  
まじりませう

第七十九

十六





あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち



あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち

あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち

あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち



あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち

あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち

あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち

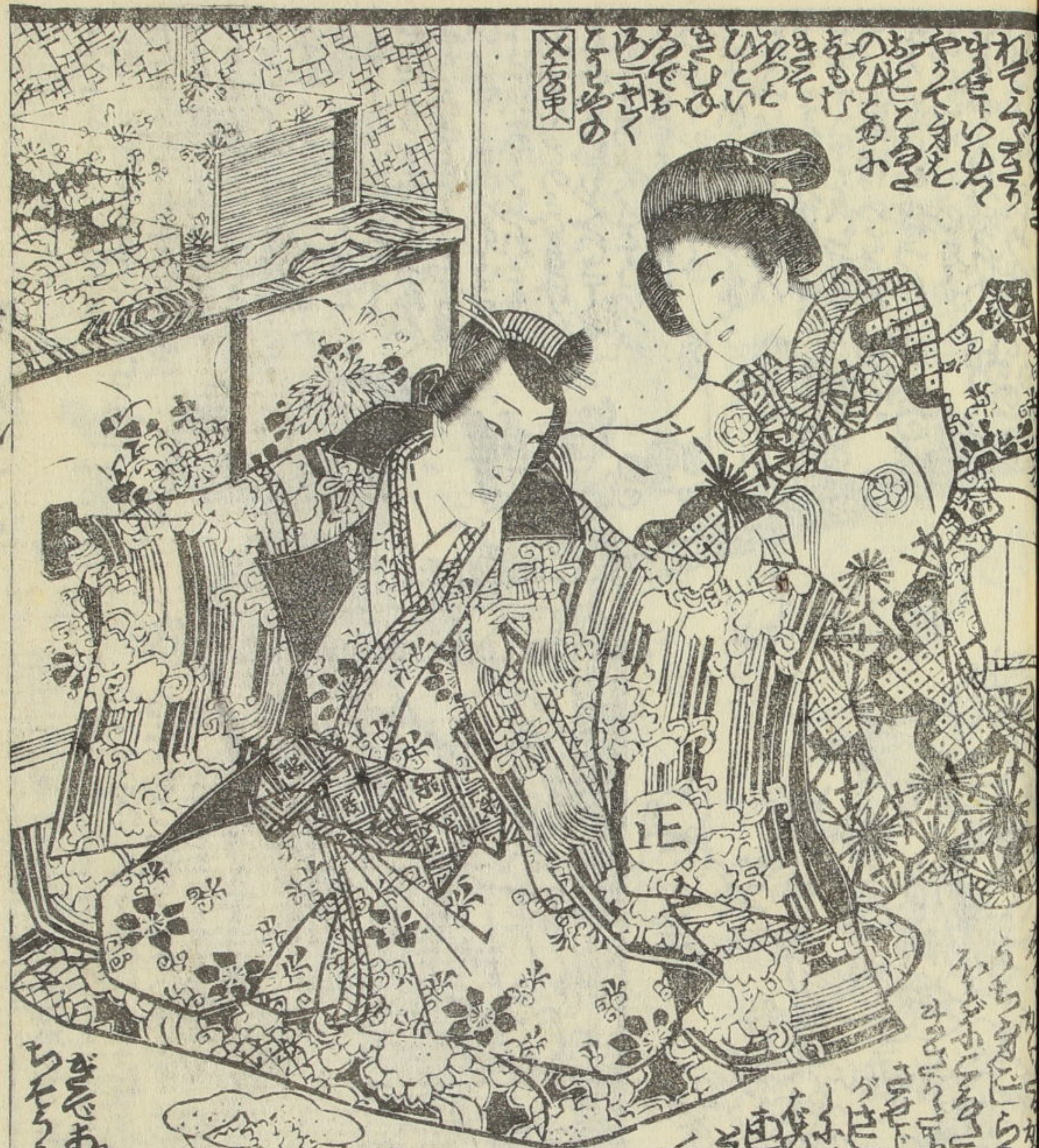
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち  
あつち



寺代ナハ



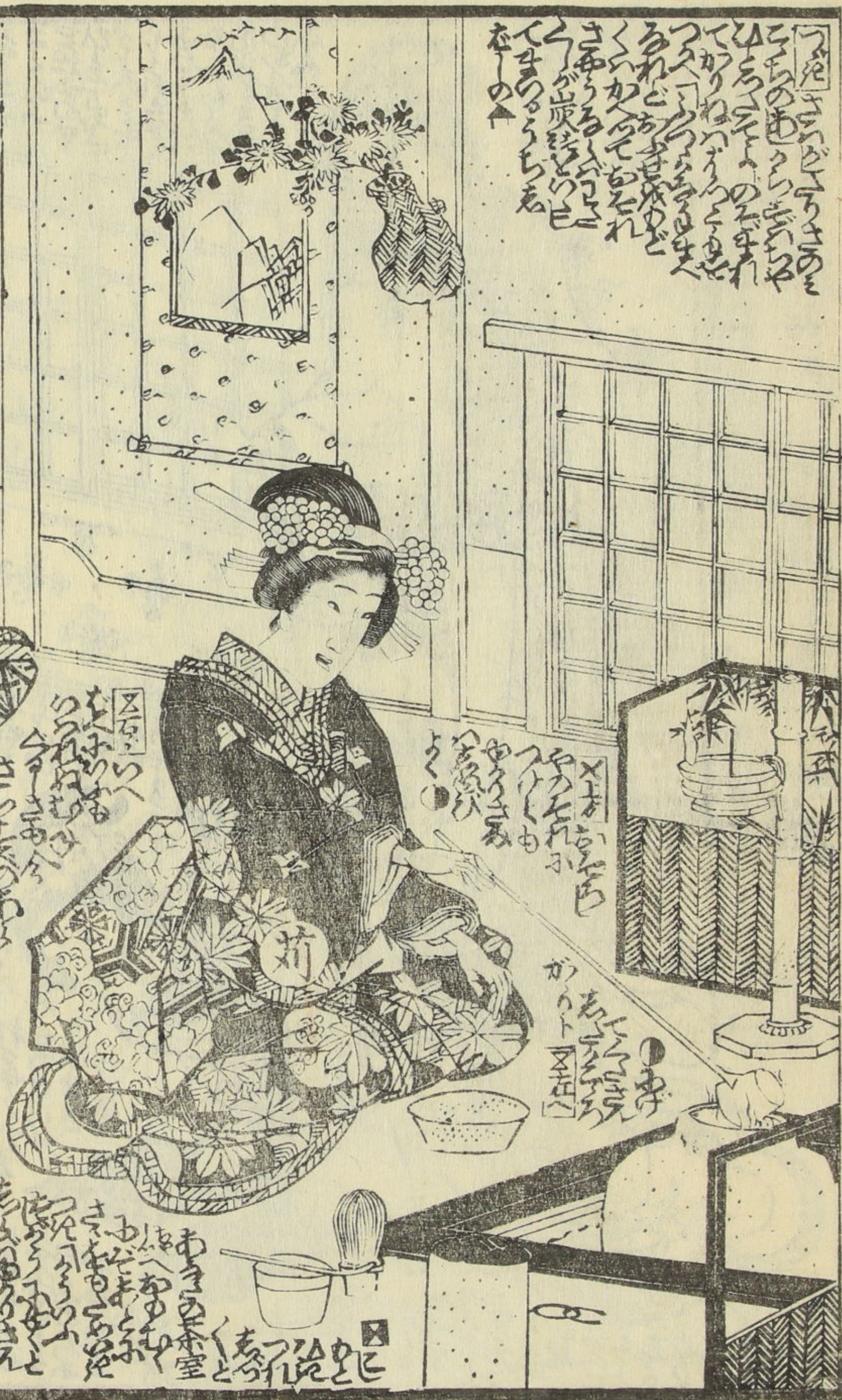
世代ナハ



合あひし  
 わたしはさき  
 やさしく  
 のびと  
 きよき  
 いはれ  
 ひと  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる

正  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる

けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる



如  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる

けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる

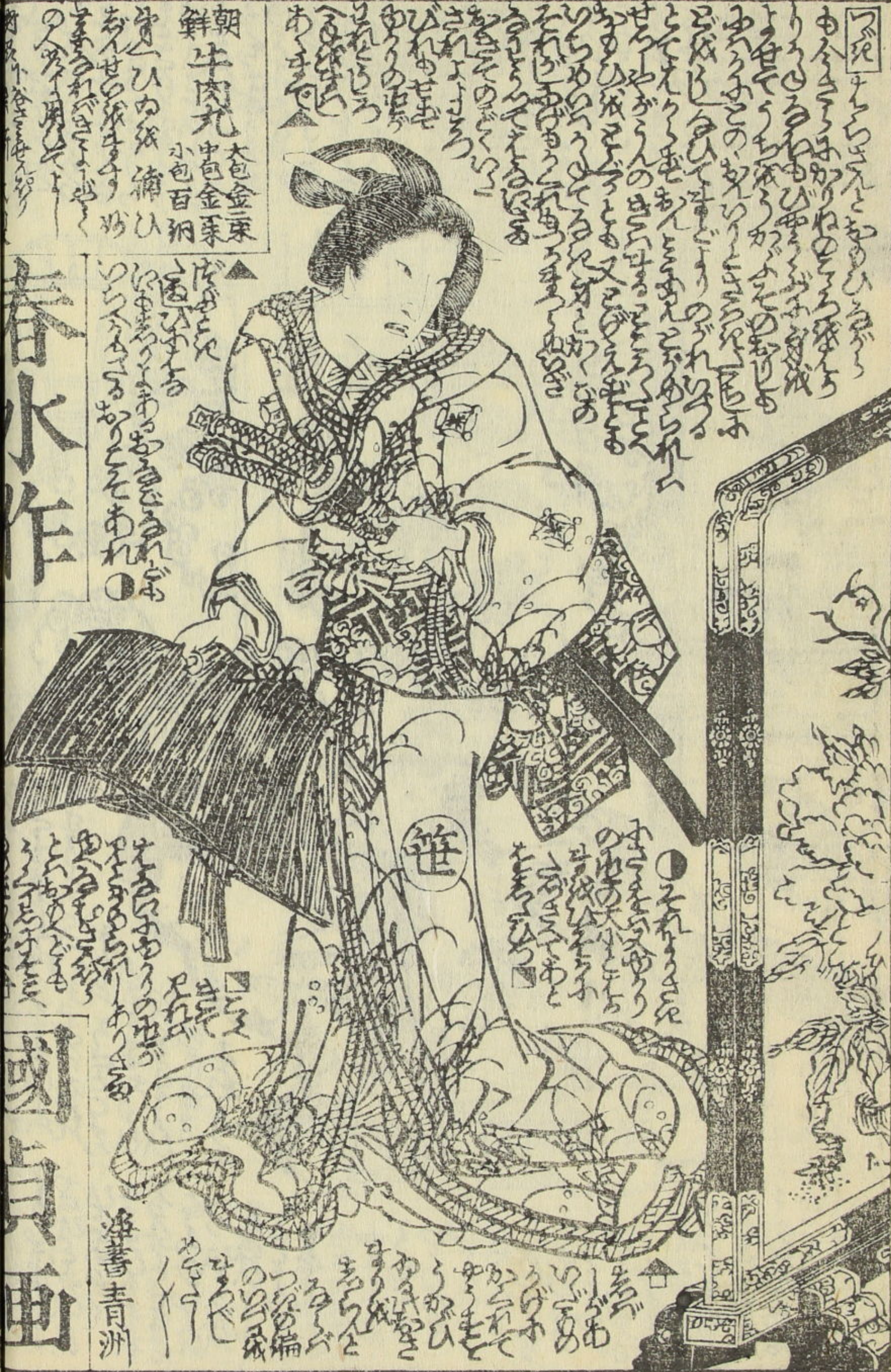
けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる  
 けし  
 なが  
 くる





人生五十年の譬は一日の戯場のまじりど実や母の胎内哉生出ふ  
 葦端より人命終るの大詰すて大千世界の本舞臺小善悪邪正の  
 両花道表小忠孝の看板の出せど心の樂屋このり仕打小

寺七十一



甲代十六

朝牛肉丸 本包金栗 中包金栗 小包百羽  
 鮮ひの内袋 備ひ  
 せんせの派生す  
 まるるれは  
 の人々月

春水作

國貞画

海書青洲



大の恩

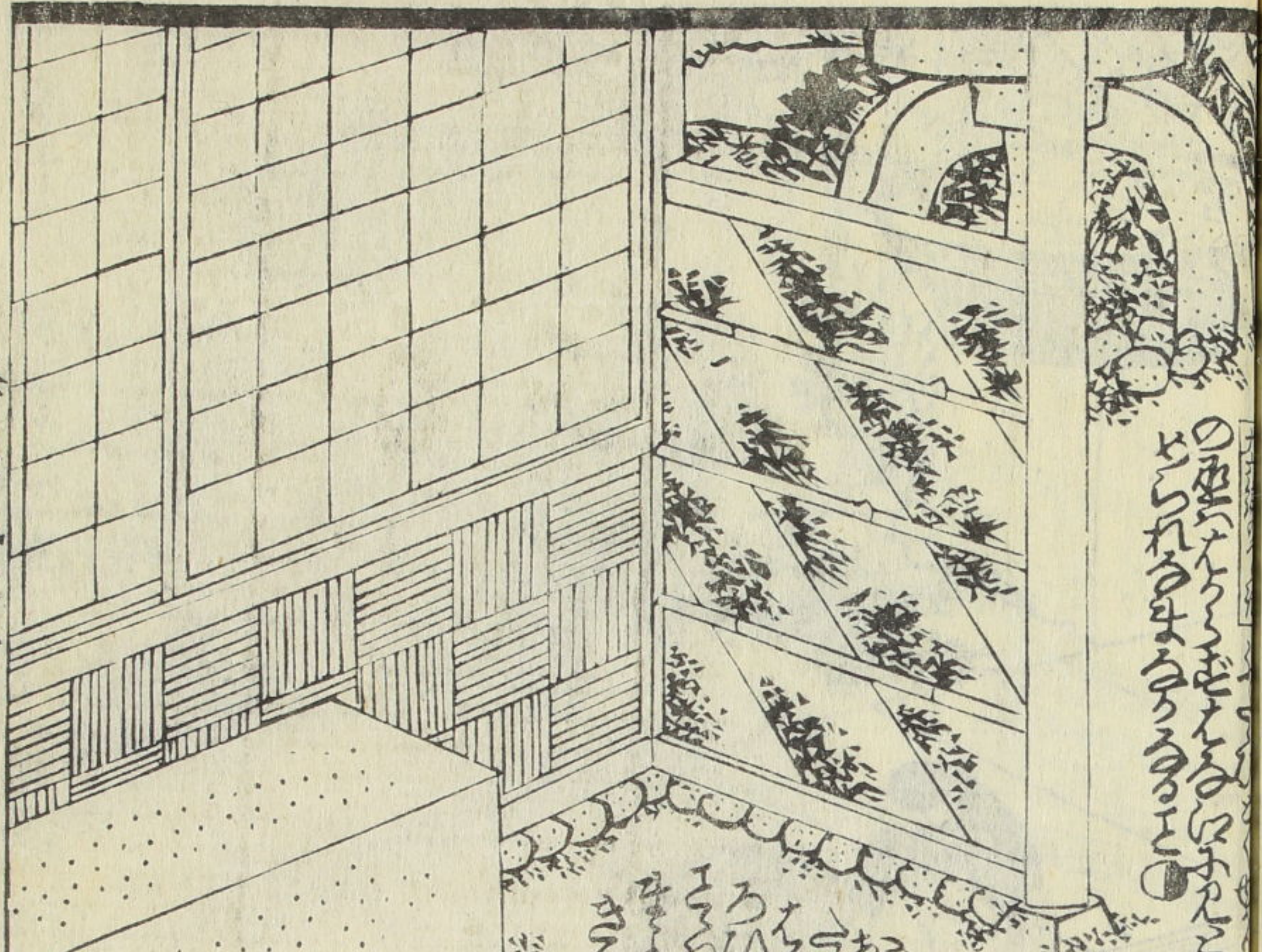
大の領  
正方

柳根の方

由縁之先  
春辰

▲ヤリ腹哉見透されて謀ると思ひの外又計らうの後悔あり  
 或い手詰の金やく小身售の愁歎晦日の混騰四季折々の移更夫  
 綿入忽地早となる一足飛の早替り無分別ある道行あり  
 胸小嫉妬の焼酎火介バせり出せし出世の大願成就と歡ぶ  
 奢て次第小身上の廻舞臺小あると六月日小幕のあがる故  
 由断の大敵か寄せく盆と暮との大立廻り借るさしの立役も  
 返もさる少敵役と朝昏日夜ふかりゆ真小浮薄の人情と天  
 道棧敷の真中より常小上覽せし一事も善小進む者ふい必む  
 餘慶を下し悪人争う餘殃を道へん嗚呼是戲場も教訓の  
 捷徑開けし史小演う紙合巻物の本さる名号つ

文久癸亥  
 初春發行  
 為永春水誌也



寺代七二  
 三  
 此の巻は... (Small vertical text columns)





あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち

あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち

あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち

あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち



あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち

あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち

あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち

あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち  
あまのこころを  
うらみおぼせし  
まはらばあはれ  
のちのちのちのち







寺七十一

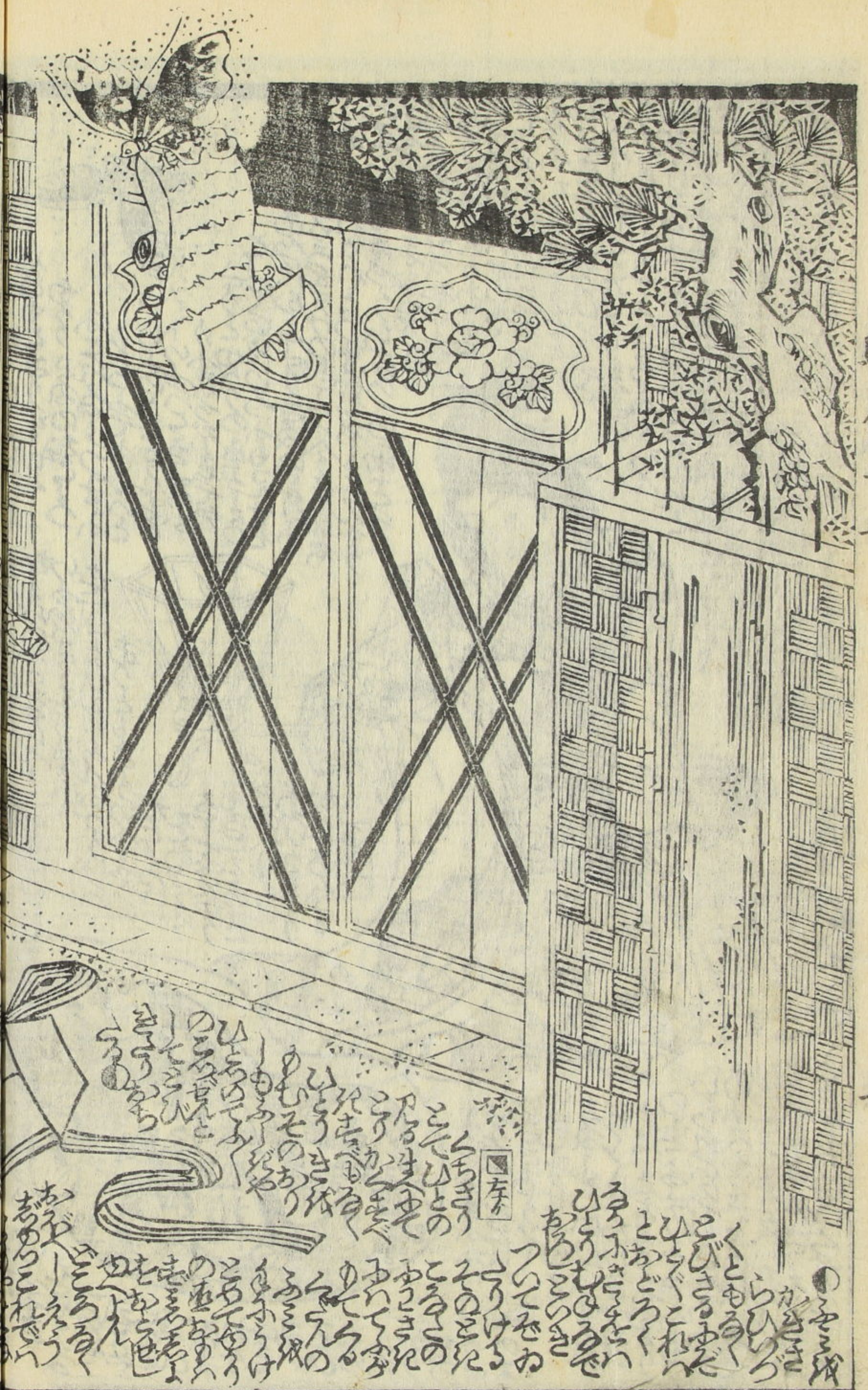
二



いづれとておとくもこれぞや  
 のちのちいふとておとくもこれぞや  
 もらわれぬとておとくもこれぞや  
 さあ、いづれとておとくもこれぞや

さあ、いづれとておとくもこれぞや  
 のちのちいふとておとくもこれぞや  
 もらわれぬとておとくもこれぞや  
 さあ、いづれとておとくもこれぞや

さあ、いづれとておとくもこれぞや  
 のちのちいふとておとくもこれぞや  
 もらわれぬとておとくもこれぞや  
 さあ、いづれとておとくもこれぞや



いづれとておとくもこれぞや  
 のちのちいふとておとくもこれぞや  
 もらわれぬとておとくもこれぞや  
 さあ、いづれとておとくもこれぞや

いづれとておとくもこれぞや  
 のちのちいふとておとくもこれぞや  
 もらわれぬとておとくもこれぞや  
 さあ、いづれとておとくもこれぞや



あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...

寺代十七

あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...

あつて...  
うさ...

あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...



あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...

あつて...  
うさ...

あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...

あつて...  
うさ...

あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...  
あつて...  
うさ...



つれづれ  
 ありての人の助  
 あれはまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ

# 春水作 國貞画

あはれはまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ



あはれはまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ



あはれはまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ  
 あらまのまのわすれ





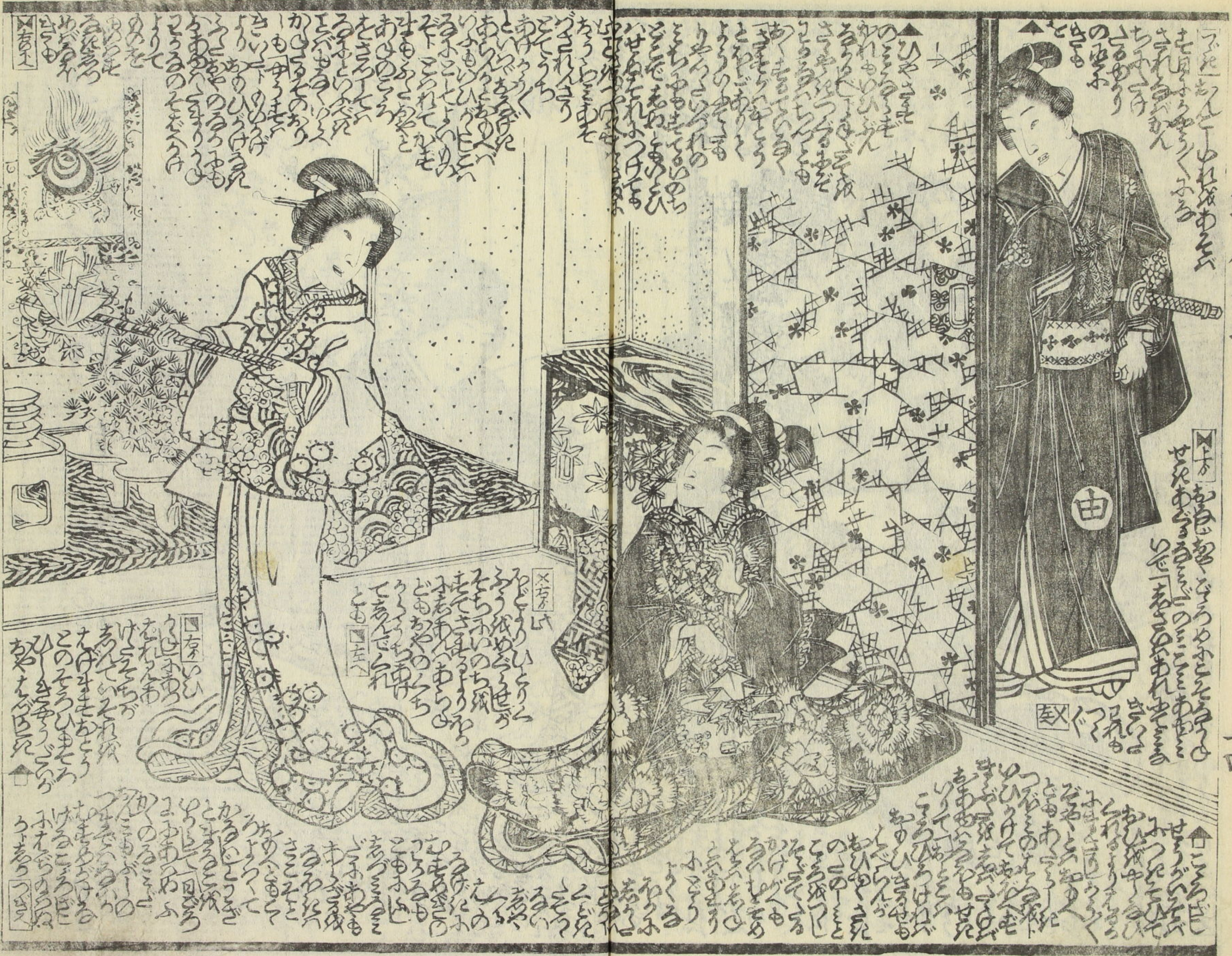


寺代ナセ

十一

十一





甲子子

△ひびきま  
のうらやま  
なれぬひびき  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん

△ま  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

△

△ひびきま  
のうらやま  
なれぬひびき  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん

△ひびきま  
のうらやま  
なれぬひびき  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん

△ひびきま  
のうらやま  
なれぬひびき  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん

△ひびきま  
のうらやま  
なれぬひびき  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん  
さやうしん

甲子子

甲子子

















大正十一年七月

美水

國貞

若子

七

三

